

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,1 OKAYAMA GT



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

96



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

4月07日 - 08日 | 天候:晴れ | コース:岡山国際サーキット | 路面:ドライ

60



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

Second Day Summary

24番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は
決勝レースも厳しい戦いが待ち受けていて
ラップタイムが上がらずに17位で初戦を終える

Second Day

「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 1
OKAYAMA GT 300km Race」の決勝レースが
4月8日(日)に岡山国際サーキットで実施さ
れた。

前日に行なわれた予選では、チームが思い描い
たような展開にはならず、想定外の24番手と下
位に沈んでしまったSYNTIUM LMcorsa RC F
GT3。予選終了後にドライバーとチームスタッ
フは、時間を掛けて改善策を練り、決勝レース
に臨むことになった。

8日(日)の決勝日は、午前中にピットウォークやドライバー紹介などのプログラムが組まれて
いて、13時5分から25分までのウォームアップ走行で、実質的な走行が始まった。ウォームア
ップ走行は、吉本大樹選手と宮田莉朋選手の両ドライバーが乗り込み計9周を走行して、決勝レー
ス前の最終的なコンディションチェックを実施。

迎えた決勝レースは1万7700人の観客のもとで、予定通りの14時40分に岡山県警の2台の
白バイが先導するパレードラップによりスタート。GT500クラスの15台とGT300クラスの29
台の計44台が出走する白熱した82周のバトルが幕を開けた。



Second Day

24番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は吉本選手がステアリングを握り、ポジションをキープしたまま1周目のコントロールラインを通過する。序盤は、117号車のベントレーや87号車のランボルギーニ、9号車のポルシェといったGT3マシンとバトルを繰り広げる。ライバル勢はストレートスピードに勝っているため、コーナーで差を詰めても抜くまでに到らない。それでも、11周目に1台をパスして23番手になり、さらに数台をパスして20周目には19番手までポジションを上げる。だが、持ち込まれたソフト側のタイヤでスタートした吉本選手は、徐々にラップタイムが落ち込みポジションを守る展開が続く。そのため、第一スティントを伸ばす戦略は採らずに、チームは吉本選手に対して28周目でピットインの指示を出した。



そしてデビュー戦となる宮田選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に乗り込む。ピットアウトした時点で22番手となり、ハイペースで前走車を追っていった。32周目には、ベストタイムとなる



1分29秒038をマークし21番手にポジションアップ。その後も1分29秒台のラップタイムを刻み初レースながらも安定した走行を行なった。レースが中盤を過ぎた40周目には19番手となり、さらに前を追っていき、全車が1回目のピットインを終えた時点で17番手を走行する。しかし、タイヤの摩耗も進んだため、これ以上のペースアップは果たせず、結果として75周を周回し、17位で2018年シーズンの開幕戦を終えた。

チームは、宮田選手のデビュー戦ということで、是が非でも好成績を残したいと開幕前のテストから時間を掛けてセットアップを進めてきた。だが、思い描いた展開とはかけ離れた内容となり、早急な改善が必要となる。翌週に控えた鈴鹿サーキットでの公式テストで課題を克服し、第2戦の富士スピードウェイラウンドに挑む。

Team Comment



Director : 飯田 章

予選、決勝レースともに厳しい結果となってしまいました。シーズンは始まったばかりですが今の状況を考えると、今後のレースも難しい展開が待ち受けていそうです。次戦の富士スピードウェイラウンドの前には、鈴鹿サーキットでの公式テストがあります。そこでの内容も含めてドライバーとエンジニアなど全員が密にコミュニケーションを取り、状況を打開しなければなりません。とにかく気持ちを切り替えて、次戦以降に臨みたいと思います。



Driver : 吉本 大樹

決勝レースはスタートを担当して、予選と同様のソフト側のタイヤで走りました。序盤はストレートスピードに勝っている先行車を抜くのに手間取りましたが、3台くらいはパスできました。15周目くらいからはタイヤのグリップ感が落ちてきて、結果的に28周目でドライバーチェンジしました。予選、決勝レースともにテストの段階では、ここまで厳しい戦いになるとは思っていませんでした。次戦の前に実施される鈴鹿サーキットでの公式テストで、何かのきっかけを掴めればと思います。



Driver : 宮田 莉朋

初めての SUPER GT 公式戦で後半の長いスティントを担当したのですが、安定したペースでは走れました。ですが望んでいたラップタイムではありません。全体的にグリップ感に乏しいので、セットアップやタイヤも改善する必要がありそうです。個人的には、GT500 クラスの隊列が迫ってきたときにラップタイムの落ち込みがあったので、譲り方などをもっと考えて、少しでもチームの力になっていければと思います。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



Second Day Summary

決勝レースは、序盤にポジションアップし5番手を走行するがタイヤのピックアップに悩まされるとともにピットでのマシン修復により14位となり、ポイント獲得を逃す

Second Day

「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 1 OKAYAMA GT 300km Race」の決勝レースが4月8日（日）に岡山国際サーキットで開催された。K-tunes Racingの地元となる同サーキットには、朝から多くの応援団が駆け付けレースを見守ることになった。

8日（日）の決勝日は、午前中にピットウォークやドライバー紹介などのプログラムが組まれていて、13時5分から13時25分までのウォームアップ走行で、実質的な走行がスタート。K-tunes RC F GT3は、スタートドライバーを務める中山雄一選手が最初に乗り込み6周を走行し新田守男選手にバトンタッチ。新田選手も5周を周回して、決勝レース前の最終確認を行なった。

迎えた決勝レースは1万7700人の観客のもとで、予定通りの14時40分に岡山県警の2台の白バイが先導するパレードラップにより幕を開けた。

6番手からスタートした中山選手は、1周目から1台をパスして5番手でコントロールラインを通過。序盤は1分27秒から28秒のハイペースでポジションを守っていく。5番手のまま10周を走行したところで、タイヤのグリップが下がりペースダウンを強いられる。15周目には8番手まで順位を下げ、その後も3台にパスされて20周目には11番手になってしまう。中山選手は、ポジションをキープするために必死に後続を抑えこむと、次第にラップタイムが回復。一時は1分30秒台まで落ちていたペースも1分29秒台で走行が可能となった。



Second Day

この状況を確認したチームは、ピットインのタイミングを遅らせて、レースが半分を過ぎた 41 周目に新田選手にドライバーチェンジ。タイヤとドライバー交換、給油を順調に終えたのだが、序盤のバトルでリアバンパーにダメージを受けていて、オフィシャルから修復するようにとの指示が出た。このマシン修復に約 20 秒の時間を要したため、新田選手がコースに復帰すると 16 番手までポジションが下がっていた。

ポイント圏内までポジションを上げようと新田選手は、ハイペースで先行車を追ったが、コース幅が狭く抜き難い岡山国際サーキットなので、簡単にパスすることができない。それでも、49 周目には 15 番手、56 周目には 14 番手と着実にポジションアップを果たしていくが、同時にタイヤのピックアップによりラップタイムが落ちてしまう。苦しい状況だったが新田選手は、走行ラインや走り方を変えつつ上位を狙う。しかし、ピットでのタイムロスの影響が大きく、76 周を走行して 14 位でチェッカーを受けることになった。

K-tunes Racing LM corsa の初陣でチームの地元ということもあり、チーム一丸となって好成績を狙ったのだが、ピットでのマシン修復によりポイントを取り逃す結果となってしまった。それでも K-tunes RC F GT3 の完成度は高く、次戦の富士スピードウェイラウンドは優勝経験を持っているコースなので、上位に入ることが期待される。



Team Comment



Director : 影山 正彦

予選は Q2 がウエットコンディションだったこともあり 6 位を獲得できました。しかし、決勝レースは上手いかないことが多くて、展開にも恵まれませんでした。中山選手のステントでは中盤にペースが鈍り、燃料が軽くなると、またペースアップしました。マシンのセットアップやタイヤも含めて、まだまだ煮詰める必要があります。BoP の影響などにより昨シーズンに比べて苦しい戦いが予想されますが、次戦は初優勝した富士スピードウェイラウンドなので、上位を目指していきたいです。



Driver : 新田 守男

ピットでのマシン修復のロスタイムがあったので、コースインしてからは追い上げようとプッシュしました。ですが、途中で先行車に詰まってしまったことや、タイヤのピックアップによってペースが鈍ってしまったのです。もし、順調にドライバー交代をしていたらポイント圏内も見えていただけに残念な結果となりました。それでも、ドライバーも含めてチーム全員が全力で戦った順位で、仕方ないとも思います。気持ちを切り替えて次戦に臨みたいです。



Driver : 中山 雄一

スタートを担当して、序盤は上位勢と遜色ないラップタイムで 5 番手を走行できました。しかし、途中からラップタイムが遅くなりピットインを考えましたが、燃料が減ってからは再びペースアップしたので、41 周目までピットインを遅らせました。結果は、ポイント圏外だったので悔しいですが、マシンの良いところも確認できたので、次戦以降の戦いには良い展望も見えています。第 2 戦の富士スピードウェイラウンドは、昨年に優勝しているの、好成績を残したいです。



ktunes
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**